

- 西牟婁地域は、ウメ、カンキツを中心に果樹栽培が盛んな地域であり、営農類型はウメを核としたカンキツとの複合経営であるが、ウメ、カンキツの価格低迷などから有望品種導入による所得の向上が課題。
- このため農業水産振興課では、農業革新支援専門員、JA紀南、県果樹試験場・うめ研究所と連携し、カンキツでは、温州ミカンの新品種導入に向けた実証園の設置、栽培マニュアル作成など技術支援を、ウメでは新品種導入に向けた技術支援を行う。
- 平成29年度末には、温州ミカンの新品種の栽培面積を3ha増加、ウメの新品種の栽培面積を28ha増加を目標とする

## 具体的な成果

## 1 温州ミカンの新品種の導入推進

- 温州ミカンの県オリジナル新品種「YN26」の導入を推進

「YN26」の栽培面積

3.8ha増（5ha → 8.8ha）



「YN26」栽培実証園での研修会と果実

## 2 ウメの新品種の導入推進

- ウメの県オリジナル新品種「NK14」、「橙高」の導入を推進

「NK14」、「橙高」等新品種への改植面積  
25ha増（62ha → 87ha）



「NK14」果実と「橙高」実証園の管理

## 普及指導員の活動

平成27年度

- 温州ミカン県オリジナル品種「YN26」栽培実証園での品種特性の把握、栽培研修会を開催。
- ウメ県オリジナル品種「橙高」栽培実証園を設置し、品種特性を把握、栽培研修会を開催。

平成28年度

- 温州ミカン県オリジナル品種「YN26」栽培実証園での品種特性の把握と適地性確認、栽培研修会を開催。
- ウメ県オリジナル品種「橙高」栽培実証園の品種特性を把握、栽培研修会を開催。

平成29年度

- 温州ミカン県オリジナル品種「YN26」栽培実証園において品種特性の把握と適地性確認、栽培マニュアルの作成。
- ウメ県オリジナル品種「橙高」栽培実証園において品種特性を把握、栽培研修会を開催。

## 普及指導員だからできたこと

- ・新品種の導入推進と栽培実証園の早期成園化  
技術の確立を図るため、普及組織がコーディネーター となり試験研究機関、JAと連携しながら普及活動を展開。

## 新品種導入による果樹産地の活性化

活動期間：平成 27～29 年度

### 1. 取組の背景

西牟婁地域は、ウメを核としたカンキツとの複合経営が主になっているが、ウメ、カンキツの価格低迷などから有望品種導入による所得の向上が課題となっている。

このため、JA や試験研究機関と連携しながら、カンキツでは温州ミカンの新品種導入に向けた栽培実証園の活用や栽培マニュアル作成などの技術支援、ウメでは新品種導入に向けた技術支援を行い、平成 29 年までの 3 ヶ年で、温州ミカン新品種の栽培面積を 3ha、ウメ新品種の栽培面積を 28ha、それぞれ増加を目指す。

[カンキツ]

### 2. 活動内容

#### (1) YN26 実証園における品種特性の把握

西牟婁地域での品種特性を把握するため、5 年生樹における果実品質及び新梢発生状況等の調査を実施した。

#### (2) YN26 導入推進と優良系統への改植更新

平成 28 年 9 月 13 日、実証園及び栽培園において生産者や関係者 50 名を対象に現地研修会及び果実試食会を開催した (JA 紀南と共同開催、協力：県果樹試験場)。

また、平成 28 年 10 月 7 日に JA 紀南生産販売委員会連絡協議会、平成 29 年 1 月 25 日に JA 紀南上富田みかん部会に対して、YN26 の果実品質調査結果と実証園の生育状況について報告を行うとともに栽培のポイントについて伝達した。



### 3. 具体的な成果

#### (1) YN26 実証園における品種特性の把握

本年は着花がやや少なく樹による着果数にバラツキがあったものの、前年に比べ約 5 倍量となる 350kg を収穫した。樹勢はゆら早生より強めのため、樹冠の拡大は良好であった。果実品質は中身先行型で着色が進まないうちに収穫適期を迎えるため、着色の促進が課題と考えられた。果実品質は着果量がやや少なく果実肥大が旺盛であったため糖が低かったものの、じょうの膜が薄く、高品質果実生産に大いに期待が持てることがわかった。次年度は、着色の促進とマルチ被覆によりさらに品質向上を目指すことを関係機関で確認できた。

#### (2) YN26 導入推進と優良系統への改植更新

現地研修会では参加者から「樹勢が強めなので着花が安定的に得られるか?」、「果皮の着色を早める方法はないか?」、「今年は果実の裂果が多く感じるが、裂果を少なくす

る方法はないか?」、「栽培の適地は?」等、多くの質問があった。現地検討会前に実施した果樹試験場内の収穫果実による試食会では、「着色が一部程度の果実でも、この時期の果実として食味は良い。」との意見が出され概ね好評であった。

YN26の導入を図る上で、技術面等において多数の意見が出されるなど、導入意欲の高まりが感じられた。西牟婁管内の平成27年度までの苗木導入本数は合計8,839本で、面積換算で約8.8haまで拡大している。

#### 4. 農家等からの評価・コメント (JA紀南生産販売委員会みかん部会長K・S氏)

9月収穫できる品種のなかでは糖度が高く食味もよい。紀南地域でも有望な品種と考えられるので、品種特性の早期把握に努め、生産者が参考となる情報を伝達してほしい。

[ウメ]

## 2. 活動内容

実証園関係では、平成28年7月21日にJA紀南及び県うめ研究所と共に昨年度定植した苗木の生育を促すため、点滴かん水チューブの設置と除草作業によるチューブ切断を防ぐため防草シートを敷設した。また、平成28年12月8日にJA紀南、県うめ研究所及び県経営支援課と共に、主幹形仕立に向けた剪定を実施するとともに、数年をかけ主幹を2m程度の長さまで垂直に伸ばす必要があるため、支柱の設置と誘引作業を行った。

加工品開発では、平成28年4月14日にJA紀南、県うめ研究所及び県工業技術センターとともにマヨネーズ風ドレッシングの商品化を検討するとともに、新たな加工品開発としてジャムの試作を行った。



## 3. 具体的な成果

昨年度に設置した実証園を軌道に乗せるため、関係機関との現地検討会を7回開催し、適切な管理対策や園主への技術指導ができたため樹の生育は順調である。

また、主幹形仕立てに向けた剪定作業では、関係機関で協議しながら各樹の剪定を実施したため、剪定技術の研鑽と生産者への指導内容の確認ができた。

#### 4. 農家等からの評価・コメント (実証園園主 I・Y氏)

主幹形栽培の技術支援をお願いしたい。また、橙高の特長を活かした新しい加工品の開発と販売ルート確保を進めて頂きたい。

#### 5. 普及指導員のコメント (西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課主任 畑田京子)

YN26の導入については、管内での生育状況や果実品質を生産者や関係者と共に確認する

ことができた。実証園の効果的な活用による現地講習会の開催やJ Aみかん部会等での情報提供により導入意欲の向上につながり、計画した導入面積を約 1.8ha 上回ることもできた。

橙高については、昨年度設置した実証園において関係機関との現地検討会を7回開催し、技術対策の共有を図り、適切な管理指導が行えたため生育は順調である。一方、新たな加工品開発では、菓子類等への幅広い活用に向け、関係機関と連携を高める必要がある。

## **6. 現状・今後の展開等**

カンキツでは温州ミカン Y N 2 6 の品種特性の把握と栽培技術の確立を目指すとともに、実証園での高品質生産により展示効果を高め、農家の導入意欲向上による面積拡大につなげる。

また、ウメではJ A紀南や県うめ研究所と連携し、橙高の初期収量を確保するため実証園を活用した主幹形密植栽培の実証、さらに果実の特長を活かした新しい加工品開発に向け、飲料や菓子類などの幅広い活用について検討を重ねていく。